

「高齢者の急性腹症に対する緊急手術の治療成績と予後因子の検討」

この研究に関する科学的・倫理的妥当性については、当院の「臨床研究審査委員会」で審議され、その実施について病院長より許可を得ています。この研究の実施期間は、2025年06月24日から2027年04月30日までを予定しています。

【研究の意義・目的】

日本は世界でも類を見ない速さで高齢化が進行しており、2023年時点で総人口の29.1%が65歳以上、うち85歳以上の「超高齢者」は全人口の5%を超えています。特に後期高齢者(75歳以上)の医療ニーズは今後ますます増加することが予測されており、急性期医療における対応力の再構築が喫緊の課題となっています。

それに伴い、穿孔性腹膜炎、腸閉塞、急性腸間膜虚血症等の急性腹症を呈する高齢者の症例数も増加傾向にあります。上記の急性腹症は腹部救急外科領域における重篤な疾患の一つであり、速やかな診断・治療介入が不可欠です。特に高齢者では、生理的予備能の低下や多臓器不全の進行、加えて複数の併存疾患を有することが多いため、若年者に比して重篤化しやすく、死亡率も有意に高いことが知られています。一方で、こうした高齢者急性腹症への対応が求められる中、消化器外科医の減少や地域偏在、夜間・休日の緊急手術体制の弱体化といった人的・制度的課題も浮き彫りになっています。

本研究は、地域の急性期医療を担う中規模病院において、高齢者を対象とした急性腹症症例の診療実態と予後に関する単施設後方視的研究です。本施設では、緊急外科対応やICU管理体制に一定の対応力を有するものの、外科医の減少や当直体制の制約といった課題も抱えており、地域における現実的な急性期医療の可能性を踏まえた診療方針の検討が求められています。本研究では、高齢者急性腹症の臨床的特徴、緊急手術の成績、治療方針の選択、短期から長期予後を多角的に評価し、併存疾患や初期対応の違いが治療成果に与える影響を明らかにすることを目的としています。将来的には、本研究の成果を基に、地域医療における高齢者急性腹症対応のあり方や、限られた医療資源下での治療戦略の最適化につなげることを目指しています。

【研究の対象】

2009年4月1日から2025年6月1日までに小倉記念病院にて急性腹症と診断され、緊急手術を施行した症例を対象とします。

【研究の方法および情報の取扱い】

ご提供いただく情報は、年齢、性別、身長、体重、基礎疾患の有無、術前心機能評価(NYHA class 評価、心臓超音波検査結果)、Performance Status(全身状態の指標)、手術対象疾患の種類、抗血小板療法の有無及び抗血小板薬の種類、抗凝固療法の有無及び抗凝固薬の種類、周術期抗血栓薬管理の方法、術前血液検査データ、病名、術式、手術時間、出血量、術中輸血量、術後合併症(手術関連死亡を含む)、最終生存確認日、死亡日、死因、な

どです。これらの情報は、通常の診療で得られた診療記録より抽出しますので、新たに身体的及び経済的負担が生じることはありません。

得られた情報は、個人情報漏えいを防ぐため、お名前、住所などの個人を特定する情報を削除した上で研究用の番号で管理し、当院の研究責任者・原田溪の責任の下、保管・管理されます。また、本研究の結果について学会発表や論文掲載等を行う際は、個人が特定できる情報が含まれないようにした上で、公表します。

【利益相反について】

この研究は特定の研究者や企業の利益の為に行うものではありません。また、この研究により患者さんの利益（効果や安全性など）が損なわれることもありません。

【連絡・問い合わせ先】

この研究や個人情報の取扱いに関するご質問やご相談等がありましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。またご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができますのでお申し出ください。

なお、対象となる患者さんの情報がこの研究に用いられることについて、患者さん（もしくは患者さんの代理人）にご了承いただけない場合には、研究対象としませんのでお申し出ください。その場合でも診療上の不利益が生じることはありません。

連絡先：

小倉記念病院 外科 担当者 原田 溪

〒802-8555 北九州市小倉北区浅野三丁目2番1号

電話 093-511-2000（代）